

よしもと和広の

町議会報告

2018年10月



日本共産党上富田町委員会
吉本和広 ☎ 08053301493

「子どもの貧困対策について」

6人に1人の子どもが貧困であることから、国は子どもの貧困対策法をつくりました。「子どもの将来がその生まれ育った環境によって左右されることのない社会を実現する施策を実施する」としています。貧困対策法に基づいた「調査・計画」「子どもの教育に関する支援」「生活に関する相談」などについて質問しました。

よしもと 上富田町でも貧困対策についての施策を策定していますか。

回答 和歌山県が今年度調査を実施中です。また、3月には子ども貧困対策推進計画を策定します。町は策定していませんが、今後貧困対策には何らかの対策をとっていかなくてはならないと考えています。

(参考)和歌山県は沖縄県に比べて3年も遅れて調査を始めたという遅れた状況です。沖縄県では、3年前から30億円の予算で支援しています。)

〈教育の支援〉

よしもと 塾に行けない子どもたちのため、すさみ町では、小学生、中学3年生に対して放課後など、退職した教員を4名雇用して無料で学習支援を行っています。田辺市もNPO法人が無料で学習支援をおこなっています。上富田町では何かされていますか。また今後、どのようなことをしようと考えておられますか。

回答 中学校では週一日7限目に地域学習ボランティア2名以上と教員でおこなっています。元教員8名が参加してくれており、保護者にも呼びかけています。小学校でも教科、クラブ活動等で学習ボランティアの支援ももっている学校もあり、システム化できればと考えています。

よしもと 教職員だけでカバーできないので、予算を作り雇用することも含め、学校以外の力をかりて塾に行けない子どもの支援をさらに進めるよう要望しました。

〈生活に関する相談〉

よしもと 湯浅町では、訪問型相談事業を実施し、0歳から一五歳までの子どもを持つ家庭に「保護者向け広報誌」を持って年4回全戸を訪問し「困っていることがないか」を聞き、信頼を得ながら相談活動をしています。また、必要な情報を提供しています。上富田にも必要と考えますがいかがですか。

回答 上富田町では、湯浅町のような訪問型相談事業ではなく、まず、地域の子育て関係者や関係機関とネットワークを駆使して人と人がつながる家庭教育支援活動の構築を行うことが大切だと思います。

よしもと ぜひ湯浅町のように日常的に行政とつながっていく相談活動を検討するよう要望しました。

〈経済的支援〉

よしもと 収入の少ないひとり親家庭では、住宅費が大きな負担となっています。町営住宅に入れない方に住宅補助を出すべきだと思うが。

町長 今のところ考えていない。
よしもと 県の貧困調査結果が出れば、関係部局と町長がどのような対策をどの分野で取るか総合的に検討するよう要望しました。

「自立支援医療の無料化について」

よしもと

◇全国在宅精神障害者実態調査

年齢	収入	全体に占める割合
18~65	9万円以下	62.05%



精神疾患の多くの方が苦しい生活をしている状況です。みなべ町、田辺市、白浜町では一割の自己負担分を市、町がだして、窓口で医療費を払わなくてよい現物支給とし、無料にしています。上富田町も5パーセントの自己負担をなくし無料にすべきだと思っております。

回答 県下で5%助成しているのが四市町、一割負担しているのが八市町です。四月から子ども医療費も無料になる予定なので福祉医療の扶助費が膨らんできます。町財政に大きな負担となり大変厳しい状況にあり、無料化については難しい状況です。

よしもと 生活の大変な方にもっと温かい行政を考えていただきたいと要望しました。